

だい きやまとし たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい ぎろく ようやく  
第4期大和市多文化共生会議 第10回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど  
日時: 2017年1月14日(土)14:00~16:40

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしや かいかい ぎしつ  
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いん いしま いとうもと み いのみさと くする み こ しらとりせつろう しようじ  
出席: 委員(石間フロレリサ、伊藤素美、猪野美里、楠瑠美子、白鳥節郎、東海林

まりえ、瀬谷麻里、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・

だんじよきようどうさんかく か ふなこし のぎき みず お こうえきざいだんほうじんやまと し こくさい かきょうかい  
男女共同参画課(船越、篠崎、水尾) / 公益財団法人大和市国際化協会

さかい こにし いしかわ いじょう めい  
(酒井、小西、石川) 以上 16名

けっせき いん けいしりやく  
欠席: 委員(ウプレティ マトリカ)(敬称略)

ほんじつ かいぎ ないよう いん ほうこく  
1 本日の会議内容と委員からの報告

ぜんかい かいけつ かだい がいこく こ にほんごりよく ふそく がっこう  
前回は解決したい課題(外国につながる子どもの日本語力が不足しているため、学校の  
じゆぎよう ぜんたいぞう いん きょうゆう いん  
授業についていけない)の全体像を委員のみなさんと共有するため、委員がそれぞれ  
ちようさ ぶん ほうこく おこな ぜんかいかいぎ ぎもんでん じむきよく せつ  
調査し、10分の報告を行った。前回会議であがった疑問点については、事務局から説  
めい こ ぜんかいかいぎ ちようさ ほうこく おこな いん めい ぶん  
明した。その後、前回会議で調査の報告を行っていない委員2名からそれぞれ10分の  
ほうこく おこな  
報告を行った。

せ や いん てら こ や  
● 瀬谷委員「寺子屋のしくみ」

やなぎばししよう しぶ やしろう こくさいきようしつ てら こ や けんがく い しら  
… 柳橋小と渋谷小の国際教室、寺子屋に見学に行き調べた。

てら こ や ぶんい き しょうがっこう ちが しぶ やしろう じゆく むだばなし  
○ 寺子屋の雰囲気はそれぞれの小学校で違う。渋谷小は塾のようで、無駄話をせず、  
まじめ べんきよう とく やなぎばししよう はなし あか ふんいき こ  
真面目に勉強に取り組んでいた。柳橋小はお話をしながら、明るい雰囲気、子  
いばしよ きようしつ しえんしや かた ほんとう がんば  
もの居場所のような教室だった。いずれにしても支援者の方は本当によく頑張ってい  
ると思つた。

ほ ごしや こま つうやくきのう た  
○ 保護者とのコミュニケーションがとれずに困っていることや通訳機能が足りないこと  
せつじつ もんだい  
が切実な問題。

しえんしや ふそく らいにち こ へんにゆう こ つ  
○ 支援者が不足している。来日したばかりの子どもが編入すると、その子につきっきりで  
み ばあい ほか こ み  
見てあげないといけない。その場合、他の子どもを見ることができないので、フォローで  
きる支援者がほしい。

にほんご ぶんかてきちが まわ こ せんせい つた  
○ 日本語や文化的違いなどのハンデがあることが周りの子どもや先生に伝わっていない。  
えんそく で ねま にほんご だれ しつ  
遠足のしおりに出てくる「寝巻き」などちょっとした日本語がわからないとき、誰かに質  
もん てら こ や き しつもん とし はじ たんご いみ りかい  
問することができず、寺子屋に来て質問した時に初めて単語の意味が理解できるケ  
ースがあるようだ。

じゆぎよう てら こ や ほしゆう ばあい ちゅうがっこう い こう  
○ 授業についていなくても寺子屋で補習できる場合はまだいいが、中学校以降はフォ

ローしてくれる受け皿がなくなってしまう。小学校を卒業する時点で、中学校の授業についていけるだけの日本語の読み書きの力が身につけている子どもは少ない。中学校以降、支援を受けることのできる場が必要だと思う。

- 感想だが、小学校の先生は寺子屋などで補習を受けながら、まずはサバイバル日本語(何とかわかる日本語)を身につけることができれば、それ以上の支援をする必要はないと考えているようだ。しかし、小学校時代に取り出し授業など(きっちりした日本語指導)を行い、授業の内容が理解できる日本語レベルになるように支援を継続すれば、中学校以降はそれほどの支援は必要としなくなるのではと思う。子どもや家庭の事情などがあるとは思いますが、もう少し、小学生のうちにフォローをしてあげたい。

### ● 田野井委員「子へのインタビュー」

- … 外国につながる子ども 10人に寺子屋や勉強のことなどを質問して、回答を得た。
- 主に柳橋小に通う子どもに質問した。子どものルーツは中国、ベトナムが多く、来日したばかりで、日本語がほとんど理解できない子も含まれている。国際教室の先生が代理で質問した子どももいる。
- 寺子屋を知らないという子どもが2人いた。そのうちの1人は寺子屋で勉強していたので、もしかしら寺子屋のことを意識していないのかもしれない。
- 寺子屋以外の勉強の場について、知らない子が8人もいた。日本に来たばかりであれば仕方ないが、思ったより多いという印象を受けた。
- 自宅など、学校以外の場で勉強している子が少ない。
- 勉強でわからないとき、先生に聞くと回答した子は、両親とも外国人であるケースが多く、親に聞くと回答した子は、片親が日本人であるケースが多い。
- 親は子どもに対して「勉強しなさい」とか「学校で教えてもらいなさい」と言っているようで、学校に対して期待を寄せている様子がうかがえる。
- 今回調べてみて、勉強する習慣が身につけていない子どもが多いという印象を強く持った。授業についていけなくなるのは、勉強する方法がわからないのも一因。家庭の中で子どもが勉強する環境が整っていない。

### (質疑)

- 質問: 寺子屋以外の勉強の場は何と回答しているのだろうか。
- 応答: 塾のこと。
- 質問: 「日本語がわからないので、寺子屋や国際教室で教えてもらいなさい」と話す親は、両親とも外国人なのだろうか。
- 応答: おそらく両親ともベトナムで、まだ日本に来て間もない方。

## 2 グループワーク

2つのグループに分かれ、前回の会議で行った委員からの報告を一つひとつ読み上げて、(A)外国人特有(外国人ならでは)の問題なのか、(B)外国人も日本人も共通する問題なのか、分類する作業を行った。その後、自分が気になった報告カード、もしくは自分が気づけなかった報告カードをひとつだけ選び、この会議で行う補習クラスが「役に立つ」のか、「役に立たない」のかの判断を含めて各自から意見を述べた。

### (各委員の意見)

- 委員：補習クラスを実施するよりも今取り組んでいる団体を支援した方がよいので、補習クラスは役に立たない。現在、寺子屋事業を8,000万円かけて行っているけど、支援する側は手一杯のようなので、寺子屋に外国につながる子どもを指導することのできる人材を派遣するなど、わたしたちにできるサポートを行えばよい。
- 委員：役に立つかどうかは一概には言えない。日本語の会話はできて意味も理解しているが、授業の内容が理解できない子どもがいる。教科のための日本語(学習言語)を支援する必要がある。中学校以降フォローする受け皿がない。
- 委員：日本語の会話ができたり、友だちと仲良く遊んでいたりすると問題ないように見えるが、授業で使う専門用語がわかっていないことが多い。新しく団体をつくるより、現在ある団体を支えることが大事なことかなと思う。
- 委員：役に立つと思う。外国人の親は、日本語が理解できないので、子どもにまかせきりになっている。わたしの場合、2年前から自分で子どもの宿題を見るのではなく、塾に行かせて勉強させており、いいペースで学習が続いている。補習クラスをつくれれば、子どもの学力向上につながると思う。
- 事務局：保護者は日本語が分からないので、ないよりまだという程度ではあるが、子どもの学習のための補習クラスは役に立つと思う。一方で、親の日本語力を向上させる取り組みも必要。
- 大和市：この会議には多様な背景を持っている人が集まっており、補習クラスを実施すれば役に立つと思う。一方で、できるかどうかの話はまた別で、他の団体を支援することが現実的だろうとも感じる。この場に来て、家庭を巻き込んだ支援が必要だということを学んだ。
- 大和市：母語が同じ子ども同士が集まれば、孤立しがちな外国人の子どもの精神的なつながりにもなるため、役に立つものと思う。
- 委員：選んだカードは「言葉や文化の違いから支援者と保護者のコミュニケーションがむずかしい(通訳機能が足りない)」。親と支援者をつなぐ通訳が足りないことを、ボラ

ンティアにやらせるのは酷である。子どもなら文化の違いは乗り越えられるし、日本の慣習を教えることは役に立つ。ボランティアに高度な要求はしない方がいい。子どもに楽しい場所を提供することが大事。

○事務局：気になったカードは「子どもが寺子屋を知っていた家族は、保護者が日本の学校に通った経験がある」。外国人は、日本人が思っている以上に日本の学校の制度を理解していない。その点をわたしたちも学校の先生も知らないとわたしたちが行う補習クラスが役に立つものにはならないと思う。

○委員：ないよりある方がいいので、補習クラスは役に立つと思う。子どもの能力を上げるためには教える側に専門性が必要。無償のボランティアには限度があり、報酬がある(有償のボランティアが行う)寺子屋は良いと思う。

○委員：外国人と日本人に共通する問題の方が多かった。外国人に特有の問題を考えると、親に日本語力がないこと。寺子屋の問題ではなく、親に対するケアの必要性が見えた。

○委員：どちらかと言うと役に立つと思う。今ある団体を支援することも大切なことだが、新しい支援の場ができることで、こうした問題を知ってもらうきっかけになるのではないかと。支援の場ができることで新しい可能性につながる。

○委員：外国につながる子どもはそれぞれの事情が異なり、幅広い個別のニーズに応えるためには支援者、ボランティアに専門性が求められる。子どもを指導するためにはその子の母語ができる(通訳ができる)だけでなく、教科に詳しくなければ教えることができない。支援する事自体は役に立つと思う。

○委員：一番大事なことは心の問題だと思った。外国につながる子どもは見た目の違い、親の都合に付き合わされることなど、悩みを誰に相談してよいか分からない。学校の先生に話しても解決するための窓口にはならない。解決できない心の問題を支援できる補習クラスがあれば役に立つ。勉強は大切でないと思っている保護者がいて、わたしは大学に行った方がいいと思っていた子どもも中卒で就職していた。今は立派な大工になっている。それから、日本の学校の先生は厳しくない。フィリピンはもっと学校の先生に力がある。日本の学校はトラブルを避けがちで、子どもがけんかしたときも当事者の親同士を会わせないようにしている。

○大和市：選んだのは「両親が日本語を話さないで子どもを助けることができない」、「家庭内のコミュニケーションが母語なので日本語の語彙力、読解力がない」。逆にバイリンガルに育つことでもあるので母語の支援ができればいい。今は行政でも民間でもなかなか母語支援ができていないので、そうした場も必要。家庭ではなく、外に支援の場をつくっていかないといけない。

### 3 全体での意見交換

今回取り組んだ「調査→報告→グループワーク」といった課題解決に向けたアプローチを踏まえて、改めてこの会議で取り組むテーマを決めた。「外国人への情報提供」に関して、各自の調べるトピックを決め、次回の3月会議で再び委員から10分の報告を行う。

#### 外国人の保護者の日本語力

- 委員長：これまでの話し合いは、一つの試み。改めてテーマを決めて、次回以降の会議を進めていきたい。
- 事務局：これまでの会議では、(1)外国につながる子どもの学習支援、(2)外国人への情報提供、(3)外国人高齢者の居場所づくり、(4)外国人と地域とのつながり、(5)職場で日本語を学べる場づくり、といった「あったらいいな」を話し合ってきた。
- 委員：せっかく外国につながる子どもへの支援について調べたので、この課題をもっと深めていきたい。
- 委員：外国人の保護者はなかなか日本語が身につけていけないので、両親の日本語を支援していけば、子どもの意欲向上などにもつながると思う。社会全体を考えた場合、最も協力できる場所は職場なので、そこで日本語を学べる場づくりを考えてみたい。
- 委員：今回子どもを取り巻く課題を調べる中で、外国人の保護者の日本語力という課題がはっきり見えてきたと思う。
- 委員：学校のお知らせが理解できない外国人の保護者に対して、「では、漢字に振り仮名をつければいいですね」といった対応を学校ではしていると思う。でも、振り仮名をつけても、わからないものはわからない。お母さんたちは単語を辞書で調べて母語に変換して、それでようやく少しわかるかな、といった程度の理解しかできない。保護者が少しでも日本語がわかれば、子どもたちも家庭や学校が楽しくなるのでは、と思ったりする。
- 委員：受け入れ側、日本人の側の問題として、「日本語を話せているから大丈夫だろう、振り仮名をふればわかるだろう」という認識ばかりで、異文化の環境で外国語(である日本語)を使って学習したり、生活したりするとはどういうことを意味するのかを理解していない。外国人が異なる文化の中で生活していることに気づいてもらえていないし、日本人が想像できていない。保護者が子どもの学習に関心がない、進学させたがらないなどと言われることがあるが、保護者はそれどころではないのかもしれない。

○委員：中学校の先生向けに行ったクロスカルチャーセミナーで、協会職員が外国語で自己紹介などをして先生に異文化体験してもらったことがあった。学校の保護者面談で通訳に行くときが多いのだが、若い先生方が多く、とても忙しいのも分かるのだけれども、新しい世代の先生に異文化の理解を深めていくことができればよいのではないか。

○委員：学校の先生は忙しくて、必要なことだとわかっていてもできていないことも多い。学校に「やってください」と押し付けるのではなく、学校と協力できるようにしていけると良い。「わたしたちに何か手伝うことができますか」と申し出るような姿勢がいい。

○委員：今回は子どもの側から課題を掘り下げていったが、次は家庭、親の側から課題を調べていったらどうか。

○委員：学校の先生は、国際理解教育の研修は受けているが、現場にどれほど還元できているか分からない。外国人の保護者に日本語の必要性を発信していく方法を考えていかなければならない。文書で伝えても一方的で反応がないので、もっと密接につながる設定を考えていく必要があるのでは。旧生涯学習センター跡地に国際交流サロンができるようだ。

○大和市：2018年4月に旧生涯学習センター北館に国際交流サロンを設置し、あわせて国際化協会も同じ場所に移転する。運営に予算はつかない中ではあるが、いろいろな意見を聞きながら運営方針を決めていくことになる。

### 外国人の保護者が抱える課題＝情報の受け取り

○委員：本日はここまで「職場で日本語を学べる場づくり」、「外国につながる子どもの学習支援」、「子どもを持つ外国人の保護者の課題」、「受け入れ側としての日本人の課題」といったテーマが話にあがっている。

○委員：そのほかに「外国につながる子どもの学習を担当する先生へのアプローチ」という話も出た。学校の先生に課題が伝わったとしても、「でも忙しい」と言われたらそれで終わりのなので、もっと発展的なことにつながれたらいいなと思う。

○事務局：会議の委員として「どうしてこうなっているのか」という問いを立てて考える必要がある。

○委員：問題はひとつに集約されてくる気がしていて、それは子どもではなく、外国人の親のこと。家には子どもの居場所がない。外国人の保護者の日本語という課題が共通しているように思うので、職場で日本語が学べる場づくりというテーマのもとで保護者が抱える課題を検討し、みんなで調べていったらどうか。

○委員：外国人が問題なのではなく、日本の制度そのものが問題になっている。先生が

忙しいことも事実で、外国人であろうと日本人であろうと課題がほったらかしにされている。わたしたち会議の委員がその穴埋めをしようとしたら、かなりハイレベルなものを要求することになるのではないかと。職場で日本語が学べる場づくりに関しては、調べたらすぐわかるので、あまり時間を割いても仕方ないのではと思う。外国人の保護者が問題なのはわかるが、外国人の保護者を教育していくのか。外国人の子どもも日本の学校で学ぶことが前提になっている。教育委員会に確認してもしっかりやっていると答えるに決まっている。いかに外国人の保護者に知らしめていくのかが重要なのではないかと。

- 委員：寺子屋に関してもできているかどうかは別にして、取り組み自体は実施している。では、外国人の保護者はどうしたらいいのか。どこに聞いたらいいのか。子どもではなく、保護者が集まってコミュニケーションをとれる場があるのだろうか。
- 委員：どうやったら、外国人に伝えられるのか、調べないといけないのでは。
- 委員：例として、イスラムの人たちは宗教でまとまっている気がするが、日本人を含め、その他はどうなのか。文化的な背景をどう考えて調べるか。
- 委員：イスラムの外国人を知っているが、その方は学校や市役所からのお知らせがわからないので、わたしの職場によく持ってくる。困っているだろうから、と職場も理解を示してくれているので、わたしがお知らせの内容を説明している。わたしができない相談であれば、国際化協会に行ってくださいと案内している。国際交流サロンができるのであれば、そこに来て外国人がボランティアに対して困りごとを相談できるようになればいい。その他にも、外国人ママのグループに話をもちかけることもできる。そのような(コミュニケーションの)場を増やすことができるとよい。職場で日本語を学べる場をつくったら良いのではないかと。外国人は仕事を求めて日本に来た人が多いが、忙しくて、疲れているので日本語を学ぶ時間や余裕がない。教会で礼拝のあと一時間だけ勉強するような場があってもいい。

#### 外国人に伝える情報提供のあり方

- 委員：たいへんな問題なので、今ここで決めるのはむずかしいのではないかと。次の会議で話すことにはできないのか。
- 事務局：次回の会議まで2か月ほど時間が空いてしまうので、テーマにあわせた宿題をやってきていただき、3月の会議でまた委員のみなさんから10分の報告をしてもらいたい。
- 委員：例えば職場で日本語を学ぶ場を調べるとして、何も接点もない委員が調べるにはどうしたらよいか。

- 事務局：国際化協会の職員を使ってどこかに一緒に行ってみることが考えられる。
- 委員：そうすると、たくさんの外国人が働く職場に行つて調査してみるのか。
- 委員：外国人が多い職場にこだわる必要はないのでは。職場について調べるにしても、外国人が日本語を学ぶ場だけでなく、情報交換できる場にもなることを含めて考えていいのだと思う。日本語のお知らせを理解することのできない外国人はどこに相談すればいいのだろうか。
- 委員：機能しているかどうかは別として、相談できる場としては国際化協会が窓口を設置している。
- 委員：本当に機能しているのだろうか。おそらく機能していると思うが、調べてみてもいいのではないか。外国人の情報の受け取り方、いざというときに相談できる場所があるかどうかを調べるのはどうか。
- 委員：中華食材店なども情報交換の場になっている。国際化協会が発行している外国語のニュースレターが置いてあったりして、そうしたエスニック料理店や食材店を情報交換の場として調べてみてほしいと思う。
- 委員：まとめるならば、外国人の情報の受け取り方や外国人への情報提供の仕方ということになる。
- 委員：いざというときに情報が得られる場があるかどうか。
- 委員：市には困ったときの駆け込み寺はあるのか。
- 大和市：市役所の国際・男女共同参画課や国際化協会になる。
- 委員：実態を把握することで、例えばこれからできるであろう国際交流サロンの参考にもなるのかもしれない。
- 大和市：例えば災害時に必要な情報を必要な方に伝えるには、コミュニティのネットワークがあり、リスト化されていればとても便利だと思う。
- 委員：県人会みたいなコミュニティがあればいいのでは。
- 委員：災害時に一番早いのは市のホームページだろう。その情報をどうやって外国人に伝えるか。
- 委員：5言語くらいのリーダー的な人物にそれぞれ情報を渡せば、そのコミュニティに広がっていくのでは。アクセスがしやすい仕組みがあればよい。

## 外国人への情報提供

- 事務局：委員のみんなでひとつのテーマを決めるか、委員がそれぞれのテーマで調べることを決めるか、どちらにするか。
- 大和市：話の流れを整理すると、職場で日本語を学べる場づくり、続いて受け入れる

日本人の問題、それから外国人の保護者の日本語力という課題、さらに情報の受け取り、情報提供というふうの流れで来ている。

○大和市：以前研修会に行った時の話だが、日本は移民を受け入れないという建前があるので、外国人は職場に必要な(工場で使う)日本語以上の日本語は覚えなくてもよいという考えが会社にはある。外国人が多く日本語を覚えると、逆に会社にとって都合が悪くなってしまふ。今後、日本に暮らす外国人は増えていくので、外国人が日本語を学ぶということは地域参画、政治参画につながっていく。これまで踏み込むことができなかった深い課題を議論している。

○委員：外国人の日本語学習にこだわることもないと思う。外国人の保護者がどうやって情報を受け取るのか、行政などが外国人にどうやって情報を提供するのか。外国人が受け取った情報をどう生かしているのか、よくわからない。おおまかに外国人の情報提供というテーマを定めて、あとは委員が各自で詳しいことを調べたいのではないか。

○委員：外国人すべてではなく、子どもを持つ保護者に対象をしばって、どうやったら外国人に情報が伝わるのか調査していくのはどうか。企業には企業の考えがある。職場の日本語学習について個人的に問合せみたのだが、労働基準法などの問題もあって企業側がかんたんに実施できるようなものではない様子だった。日本語学習よりも、保護者に限定した情報提供に内容をしばっていったらどうか。

○委員：テーマが広すぎるので1回の会議ではまとめられないのでは。

○委員：会議としての方向性はだいたい合っている。外国人の情報提供に焦点を合わせ、各自で調べていったらどうか。

○委員：なぜ2月の会議がないのか。押し付けられ感、やらされ感が強いので、2月に事務局主導ではなく、委員だけで集まって話し合ってもいいのではないかと。今はみんな疲れていて話し合いが終わらない。

○事務局：調査にかかる時間がなくなるので、集まるのであれば早目にやった方がいいと思う。

○委員：テーマが広すぎるので、情報提供というだけではまとめられないのではないかと。

○事務局：詳しくはこれからメールでやりとりしながら決めていく。

○委員：わたしたち委員はあまり先のことが見えていないので不安に思うこともある。

○事務局：まずは情報がどのように届いているのか調べることになる。そして、3月の会議で調べたことを10分にまとめて各委員から報告する。先に取り上げたテーマである「外国につながる子どもの学習支援」とこれから取り上げる「外国人への情報提供」のテーマを比較して、会議としてどちらのテーマに取り組むのかを決める。そして、自分た

ちで行動することで課題の解決につなげる。わたしたちが一番解決したい課題はどんなもので、わたしたちにできることは何か。

○委員：私は外国人が情報をどうやって受け取っているかを調べていきたい。いろいろな情報がないと生活していけない。情報の受け取り先は日本語教室かもしれないし、教会や市役所、学校なのかもしれない。

○委員：情報とはどんな情報のことなのか。欲しい情報は人によって全然違う。

○委員：人によって違うのであれば、どういう情報が欲しいのかを含めて調べた方がいいのではないだろうか。私は情報を出す側の姿勢を知りたい。どうしてやさしい日本語が使われないのか疑問。情報を受ける側もどんな情報を知りたいのか調べてみる。

○事務局：今後はメーリングリストで事務局から外国人への情報提供について問いを投げかけるので、委員のみなさんはどんな情報にするのか決め、3月の会議で報告する。委員から調べたい項目があれば、メールで投げかけてもらう。

○委員：他市の情報提供のあり方を調べるなど、調査する内容を委員から提案してもよいと思う。それでは、外国人の情報提供について調べる事でよいか。

○委員：(異議なし)

○事務局：今後は各自の調べる内容をメーリングリストで決めていきたい。

#### 4 その他次回会議について

次回の会議は 3月11日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行い、各委員が調べてきたことを10分以内にまとめて報告する。

以上